

平成 24 年度みどりの市民意識調査 概要版

調査概要

(1) 調査目的

市民のみどりに関する満足度やみどりの施策に対する考え方などを把握し、その結果を今後の施策や計画づくりに反映すること。

(2) 調査仕様

調査対象	仙台市にお住まいの満 18 歳以上の男女 5,000 人
抽出方法	平成 24 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	無記名のアンケート調査（郵送による配布・回収）

(3) 調査期間

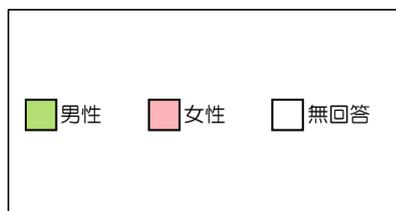
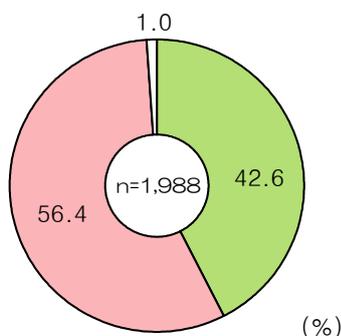
調査票発送	平成 24 年 7 月 19 日
回収期限	平成 24 年 8 月 10 日

(4) 回収率

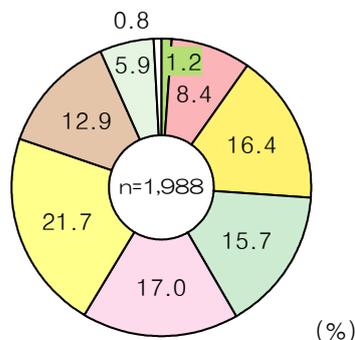
対象者数	5,000 人
有効回収数	1,988 票
有効回収率	39.8%

調査回答者の属性

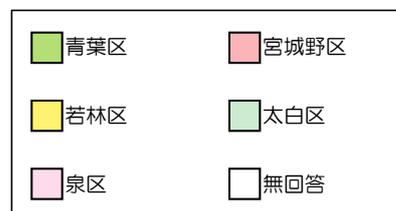
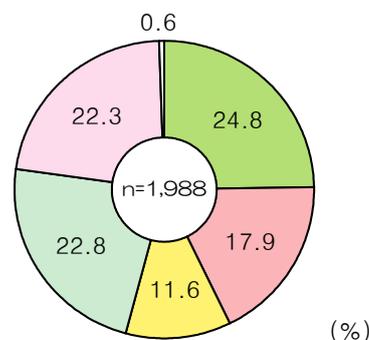
(1) 性別



(2) 年代



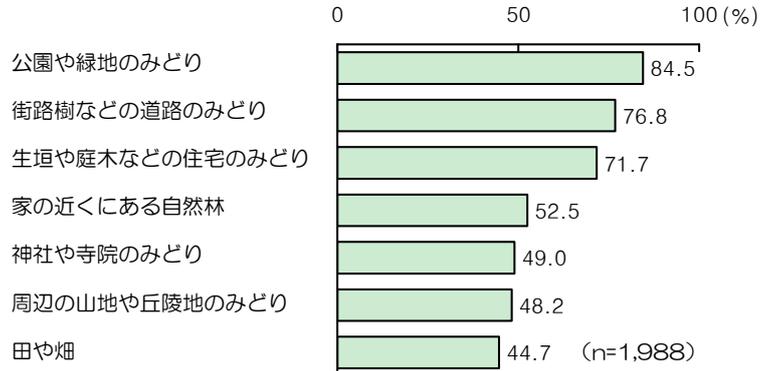
(3) 居住地区



1. 身近なみどりについて

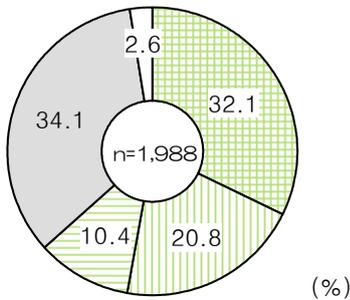
(1) 身近なみどり

●身近なみどりとして、7割以上の人が「公園や緑地のみどり」、「街路樹などの道路のみどり」、「生垣や庭木などの住宅のみどり」を選んでいる。



※複数回答可 (個数制限なし)
※上位7項目のみ抜粋

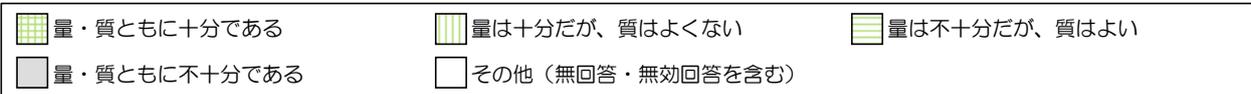
(2) 身近なみどりの満足度



●身近なみどりについては、「量・質ともに十分である」と感じる人が約3割となっている。

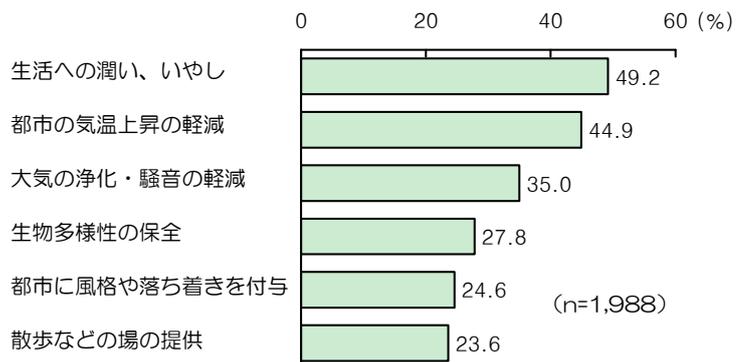
●量と質の満足度は、量が十分と感じる人（「量・質ともに十分である」+「量は十分だが、質はよくない」）は約5割となっているのに対して、質が十分と感じる人（「量・質ともに十分である」+「量は不十分だが、質はよい」）が約4割となっており、量に対しての満足度が比較的高い。

※みどりの「質」とは、生活環境を良くする、生物を保全する、景観を良くするなど、みどりが持っている機能のこと



(3) 身近なみどりに期待する機能

●身近なみどりに期待する機能では、「生活への潤い、いやし」や「都市の気温上昇の軽減」、「大気の浄化・騒音の軽減」を多くの人を選んでいる。



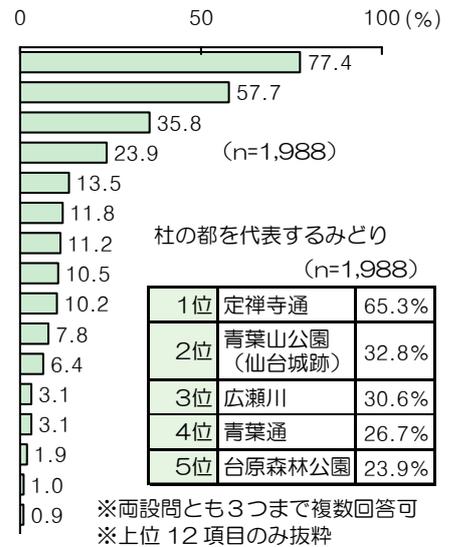
※3つまで複数回答可
※上位6項目のみ抜粋

2. 杜の都という言葉について

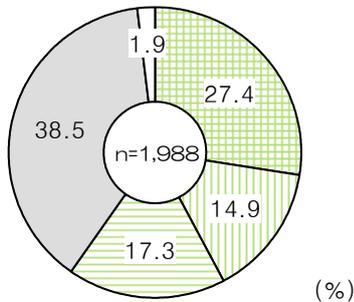
(1) 杜の都という言葉から思い描くみどり

- 杜の都という言葉から思い描くみどりについては、定禅寺通や青葉通に代表される「街路樹などの道路のみどり」や、青葉山公園や台原森林公園といった「公園や緑地のみどり」を多くの人を選んでている。
- 戦前から「杜の都・仙台」の代表となっていた屋敷林（居久根）の印象は小さいものとなっている。

街路樹などの道路のみどり
公園や緑地のみどり
商店街やオフィス街のみどり
史跡や名勝などのみどり
生垣や庭木などの住宅のみどり
周辺の山地や丘陵地のみどり
河川や海浜などの水辺
神社や寺院のみどり
家の近くにある自然林
学校などの公共施設のみどり
天然記念物などの老木や巨木
マンションなどの集合住宅のみどり
田や畑
郊外の大型商業施設のみどり
屋敷林（居久根）
大きな工場のある工業地のみどり

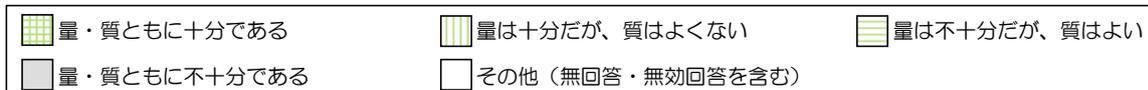


(2) 杜の都という言葉からみるみどりの満足度



- 杜の都という言葉からみるみどりの満足度については、「量・質ともに不十分である」と感じる人が約4割となっており、「量・質ともに十分である」と感じる人よりも1割以上多い割合となっている。

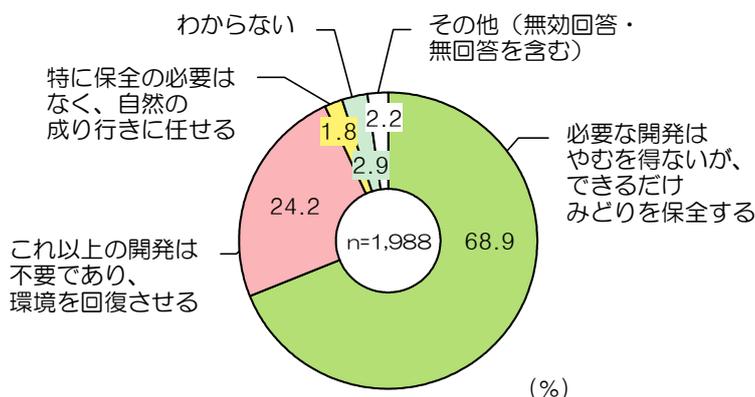
※みどりの「質」とは、生活環境を良くする、生物を保全する、景観を良くするなど、みどりを持っている機能のこと



3. みどりのまちづくりについて

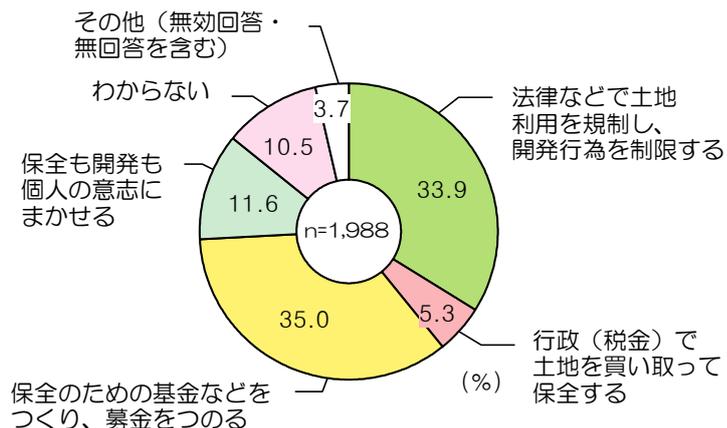
(1) 樹林地などの身近なみどりの保全について

① 自然のみどりの保全と都市開発とのバランス



- 自然のみどりの保全と都市開発とのバランスについては、約7割の人が、「必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを保全する」を選んでいる。

②私有地のみどりの保全方法

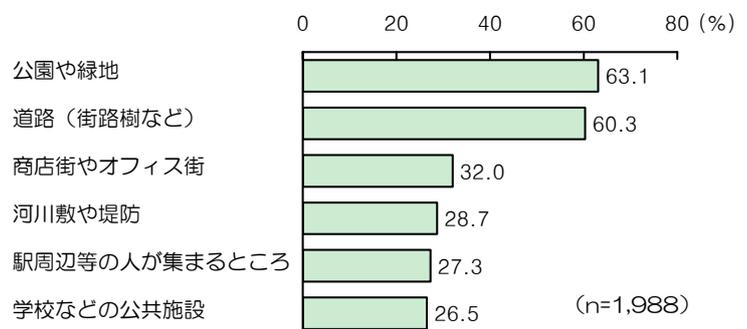


●私有地のみどりの保全方法については、個人や企業の土地であってもみどりを保全すべきだと考える人（「法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する」＋「行政（税金）で土地を買い取って保全する」＋「保全のための基金などをつくり、募金をつのる」）が7割を超えている。

（2）市街地の緑化について

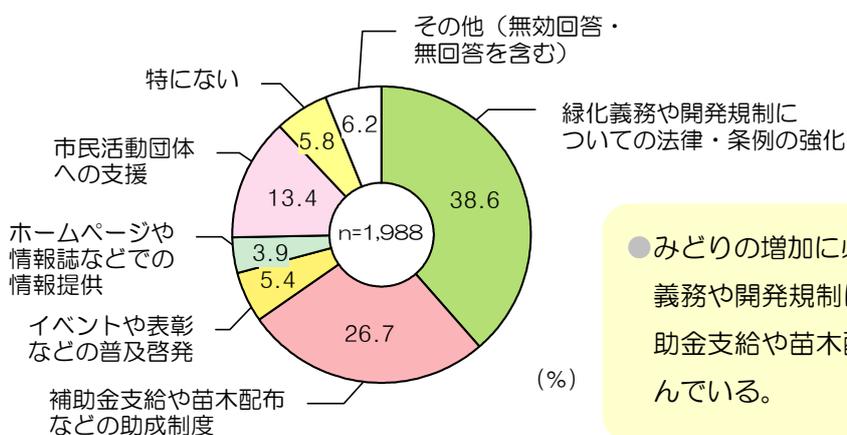
①重点を置くべき緑化箇所

●重点を置くべき緑化箇所として、6割以上の人が「公園や緑地」や「道路（街路樹など）」を選んでいる。



※3つまで複数回答可
※上位6項目のみ抜粋

②みどりの増加に必要な行政の取り組み

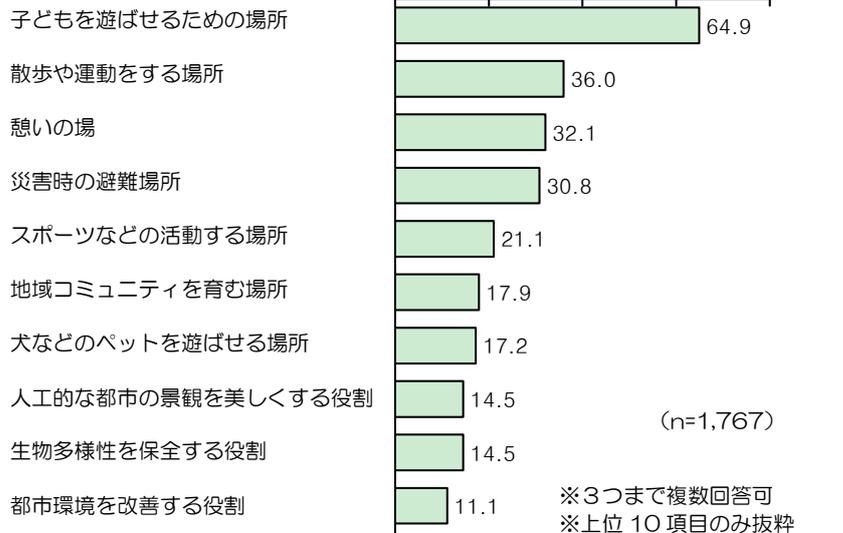


●みどりの増加に必要な行政の取り組みとしては、「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」や「補助金支給や苗木配布などの助成制度」を多くの人が選んでいる。

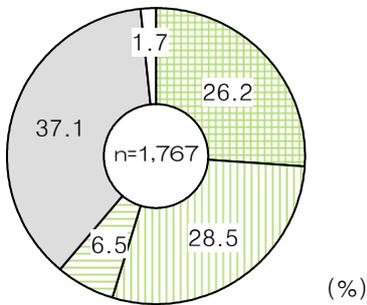
(3) 公園について

① 住まいの近くの公園の役割

● 身近な公園の役割としては、6割以上の方が「子どもを遊ばせるための場所」を選んでいる。次いで、「散歩や運動をする場所」、「憩いの場」、「災害時の避難場所」となっている。



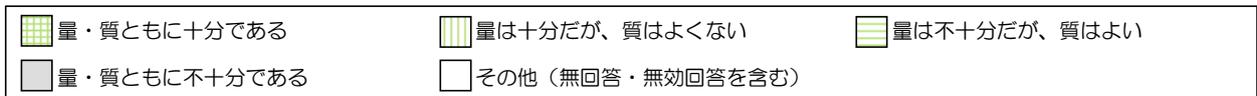
② 住まいの近くの公園の満足度



● 身近な公園について、「量・質ともに不十分である」と感じる人が約4割となっている。

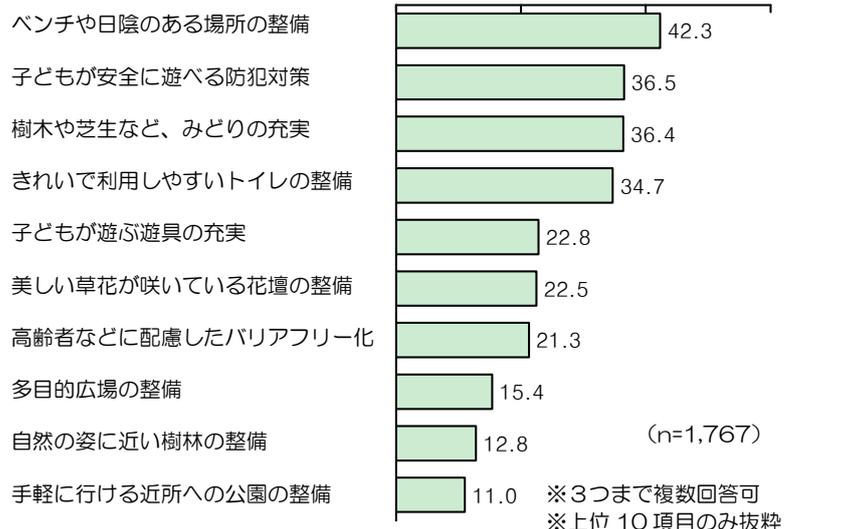
● 質が不十分と感じる人（「量は十分だが質はよくない」+「量・質ともに不十分である」）が約7割を占めている。

※公園の「量」とは広さや数のことで、「質」とは施設の整備や管理の状況のこと



③ 住まいの近くの公園の整備に必要なこと

● 身近な公園の整備に必要なこととしては、4割以上の方が「ベンチや日陰のある場所の整備」を選んでいる。次いで、「子どもが安全に遊べる防犯対策」、「樹木や芝生など、みどりの充実」、「きれいで利用しやすいトイレの整備」となっている。

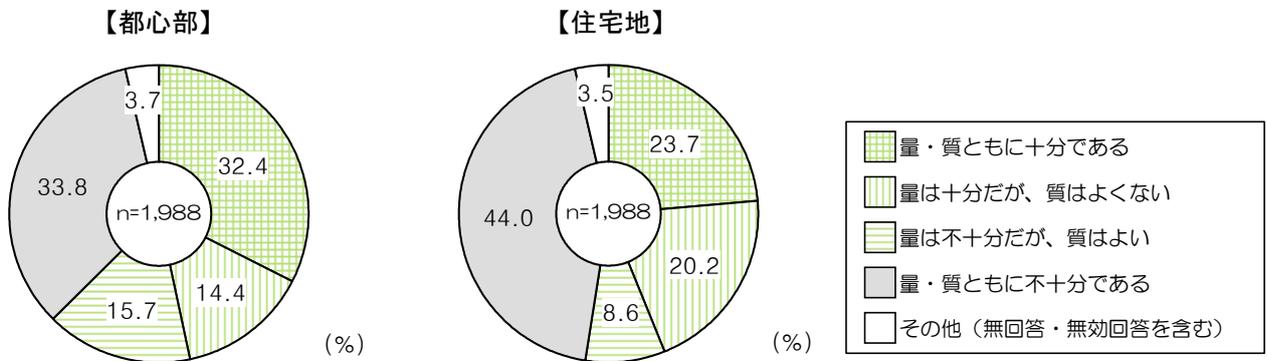


(4)「都心部」と「住宅地」の街路樹について

①街路樹の印象

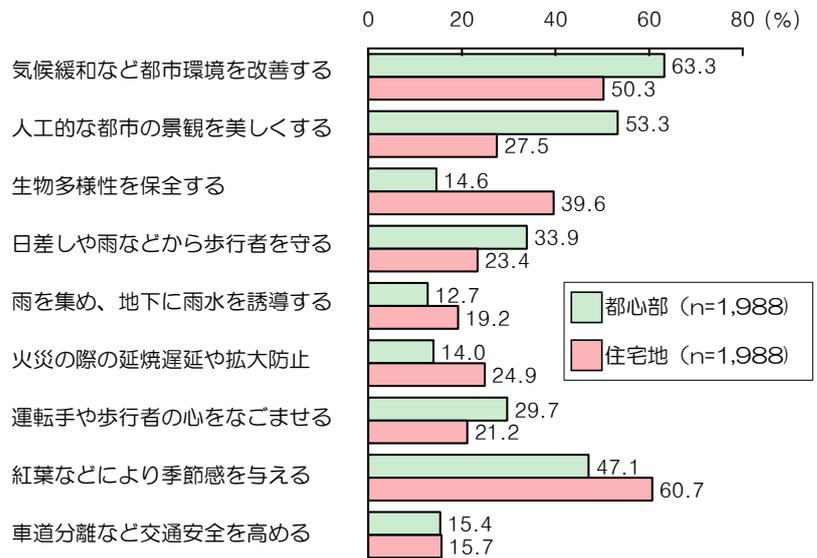
- 街路樹の印象については、「量・質とも不十分である」と感じる人が多く、特に住宅地では4割を超えている。また、「量・質ともに十分である」と感じる人は、住宅地で約2割であるのに対して、都心部では約3割と多い割合になっている。

※街路樹の「質」とは、気候緩和など都市環境を改善する機能や、景観を美しくする機能などのこと



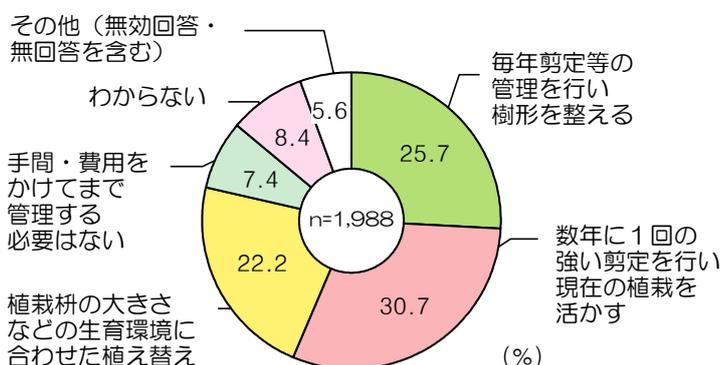
②街路樹に期待する機能

- 街路樹の機能については、「気候緩和など都市環境を改善する」や「紅葉などにより季節感を与える」を多くの人が選んでいる。
- 都心部と住宅地で比較すると、都心部では「人工的な都市の景観を美しくする」、住宅地では「生物多様性を保全する」などが多い割合となっており、差がみられる。



※両設問とも3つまで複数回答可
※上位9項目のみ抜粋

③街路樹の管理

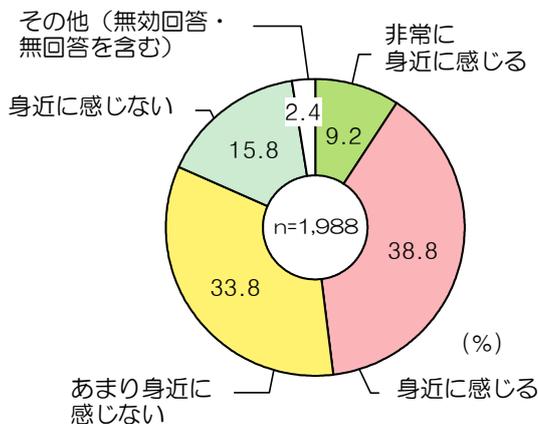


- 街路樹の管理については、積極的に植栽・維持管理をすべき（「毎年の剪定等の管理」＋「数年に1回の強い剪定」＋「生育環境に合わせた植え替え」という回答が約8割となっている。

(5) 河川について

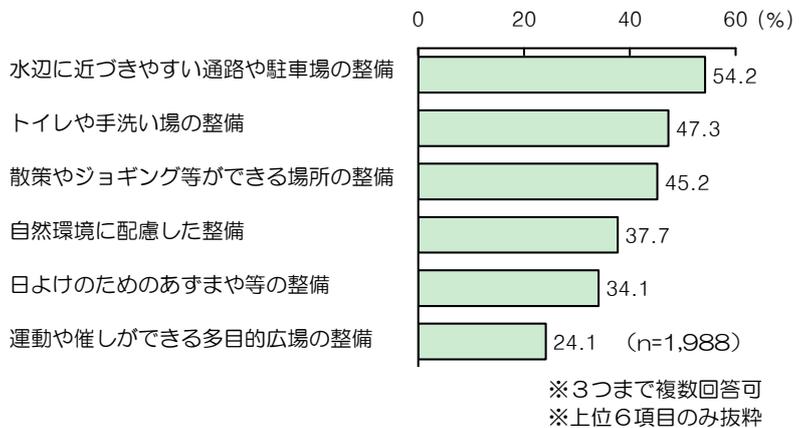
①仙台市の河川への親しみ

- 仙台市の河川に対して「(非常に)身近に感じる」人と「(あまり)身近に感じない」人の間に大きな差はなく、同程度の割合であった。



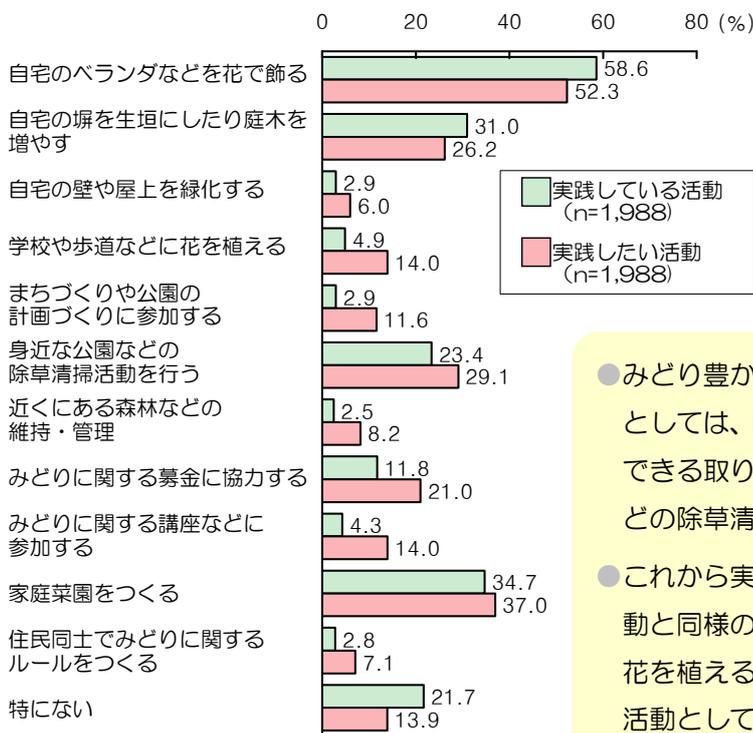
②河川区域の整備に必要なもの

- 河川区域の整備に必要なものについては、5割以上の人「水辺に近づきやすい通路や駐車場の整備」を選んでいる。次いで「トイレや手洗い場の整備」、「散策やジョギング等ができる場所の整備」となっている。



4. みどり豊かなまちづくりへの参加について

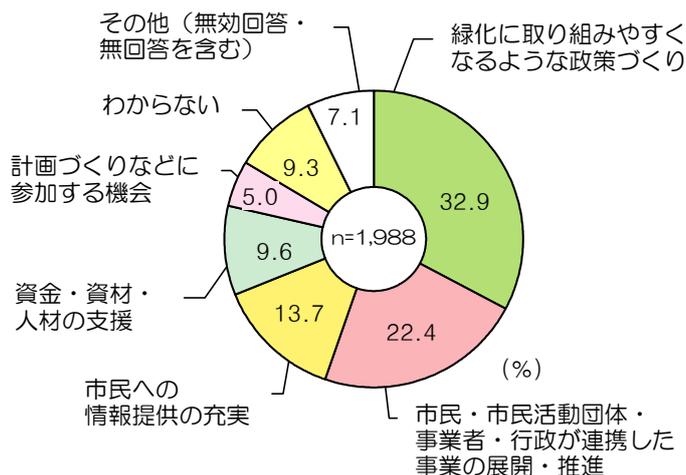
(1) みどり豊かなまちづくりのために実践している・実践したい活動



- みどり豊かなまちづくりのために、現在実践している活動としては、「自宅のベランダなどを花で飾る」など、個人でできる取り組みが多くなっている。その他、「身近な公園などの除草清掃活動を行う」が約2割となっている。
- これから実践したい活動についても、現在実践している活動と同様の項目が上位を占めているが、「学校や歩道などに花を植える」などの公共的な場所での活動は、実践したい活動として多くなっている。

※両設問とも複数回答可 (個数制限なし)
※上位12項目のみ抜粋

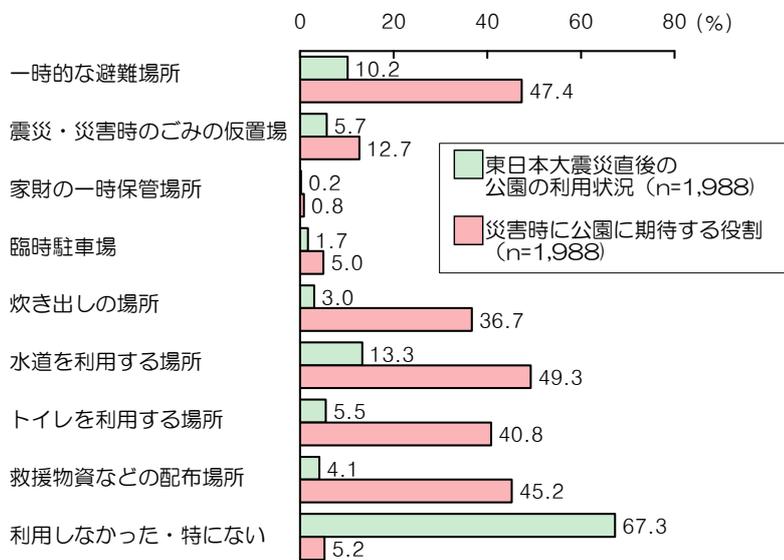
(2) みどり豊かなまちづくりのために必要なこと



- みどり豊かなまちづくりのために必要なことについては、「緑化に取り組みやすくなるような政策づくり」や「市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進」が多くの人に選ばれている。

5. 災害時の公園利用について

(1) 東日本大震災発生直後の公園の利用状況と災害時に公園に期待する役割



※東日本大震災直後の公園の利用状況については複数回答可（個数制限なし）
 ※災害時に公園に期待する役割については3つまで複数回答可
 ※上位9項目のみ抜粋

- 東日本大震災直後の公園の利用状況は、最も多い「水道を利用する場所」でも約1割と、少ない割合となっている。
- 災害時に公園に期待する役割では、東日本大震災直後の公園の利用状況と比較すると、「特にな」という回答は1割未満となっており、その他の全ての項目で上回っている。特に「一時的な避難場所」や「救援物資などの配布場所」など、多くの人が集まることができ場所や、「水道を利用する場所」や「トイレを利用する場所」など、施設を利用できる場所を多くの人が選んでいる。

平成24年度みどりの市民意識調査 概要版

平成25年1月

仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1 TEL: 022-214-8388

※本調査の詳細については市ホームページ

(<http://www.city.sendai.jp/shizen/midori/date/index.html>) をご覧ください。